

ねりま小中一貫教育レポート

〇●〇 第 29 号 〇●〇

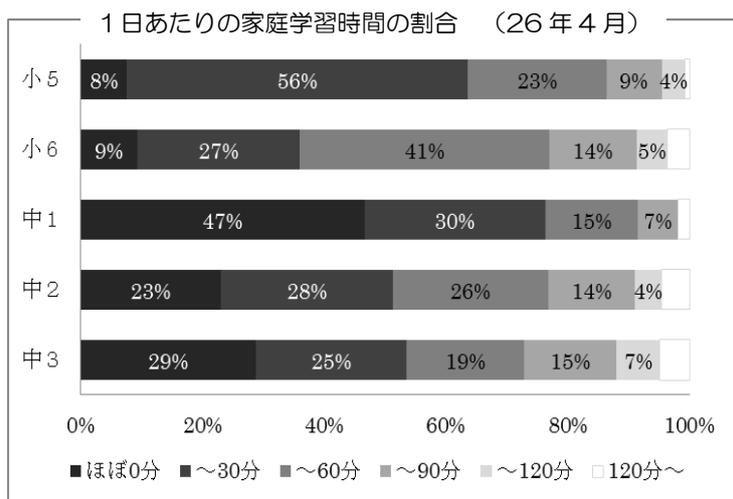
平成 26 年 12 月

発行：教育企画課・教育指導課

「ねりま小中一貫教育レポート」は、小中一貫教育の取組を全校で共有するため、随時発行しています。第 29 号では、平成 25・26 年度小中一貫教育研究グループ「開進第二中学校・南町小学校・向山小学校」の取組について紹介します。

◆小中連携で家庭学習の習慣化をめざす

小中一貫教育の研究を始めるにあたって 3 校で子供たちの実態を話し合った際、課題にあがったのが「家庭学習の習慣がついていない子供が多い」ということでした。3 校で家庭学習（塾での学習時間を除く）の実態を把握するため、子供たちに「家庭学習記録ノート」を配って、期間を区切って家庭学習の内容と学習時間を記録してもらいました。

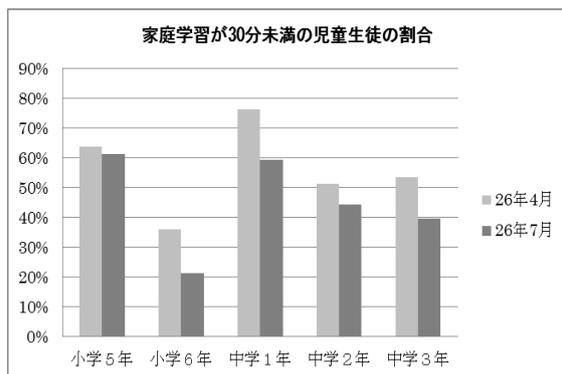


その結果、1 日あたりの家庭学習の時間が 30 分未満の割合が中学 1 年生で最も高く 8 割近くに達していました。また、約半数の生徒が家庭学習をほとんどしていませんでした。

こうした実態の改善に向け、開進第二中学校では、家庭学習を習慣化するために、曜日ごとに教科を決めて「毎プリ」と名

付けたプリントを課題として出すことにしました (=写真㊸)。

南町小・向山小学校では、小学校時代に宿題しかやらないと中学校に進学してから家庭学習をしなくなると考え、小学校段階から自主的に学習する習慣を身に付けられるように「自主学習ノート」を取り入れることにしました。



こうした取組によって、26 年 7 月に行った家庭学習調査では、家庭学習の時間が 30 分未満の児童生徒の割合を全学年で減らすことができました (=グラフ㊸)。中学 1 年生で家庭学習の時間が 30 分未満の割合は 6 割へ、ほとんど家庭学習をしない生徒の割合は、3 割へと減りました。

小学校の高学年になったら、課題を出さなくても自主的に家で学習するようになってほしい、というのが先生方の願いです。今後も3校で試行錯誤をしながら、自主的に学習できる子供を育てるために小中9年間でどう働きかけていけばよいか、その方策を探っていく計画です。

◆校区別協議会で小学校教員による乗り入れ授業を実施



6月の校区別協議会では、南町小・向山小学校の教員が開進第二中学校の全学級の授業にT2として乗り入れ指導を行いました。

中学校教員による乗り入れ授業は多く行われていますが、小学校教員による乗り入れ授業の実践例は数少ないという実情があります。小学校の先生方にはどのように指導に加われば

よいか戸惑いも見られました。しかし、「はじめはうまく指導に入れなかったが生徒の成長を感じ、とても勉強になった」「小学校で学習した内容が中学校の学習につながっていくことがわかった」「小学校で基礎を身に付けさせることの大切さを改めて実感できた」など、小中一貫教育の視点から今後に向けた感想が聞かれました。

◆人権教育で3校連携し、課題改善カリキュラムを作成

開進第二中学校と南町小学校は、東京都教育委員会人権尊重教育推進校として、長年、人権教育に取り組んできています。研究グループとして向山小学校が加わり、現在は3校が連携して人権教育を進めています。夏季休業中には3校の全教員が参加して、講師を招いて勉強会を開いたりグループ協議を行ったりしました。

11月に行われた南町小学校の人権尊重教育推進校研究発表会にも、3校の全教員が参加しました(=写真⑥)。開進第二中学校の難聴学級教員による出前授業の様子も紹介されました。

堀田教育指導課長からは「人権とは自分も他人も幸せになることです。他の人の立場に立って、その人の考えや気持ちなどが分かるような想像



力や共感的に理解する力を身に付けさせることが大切です。差別してはいけない、いじめはいけない、〇〇してはいけないといった認識に留まらず、よりよい社会のために積極的に〇〇していく、とプラスで考え行動していくことが大事です」と指導講評がありました。

講師の東京聖栄大学の有村久春教授からは「今までは同質の社会を作ろうとしてきた。21世紀のグローバル社会では、異質の社会でどう共有していくかを考えていくことになる」などのご指導をいただきました。

3校では、人権教育をテーマに課題改善カリキュラムを作成しています。1月のねりま小中一貫教育フォーラムでの発表をご期待ください。